

## 平成 29 年度霞ヶ浦コンシェルジュ養成講座第二期第一回 実施報告

実施日時：平成 30 年 1 月 28 日（日）13:30-15:30 場所：霞ヶ浦環境科学センター

講師：沼澤篤（霞ヶ浦環境科学センター） 受講者数：16 名

**要旨：**平成 30 年 10 月に開催される第 17 回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦 2018）に向け、霞ヶ浦を訪れる多くの参加者に、霞ヶ浦についてわかりやすく解説できる“霞ヶ浦コンシェルジュ”（案内人）を養成するため、「霞ヶ浦コンシェルジュ養成講座」第二期を開講しました。

第二期の第一回では、受講生が得意とするテーマを自ら選び、他の受講者を前に、自分の言葉でわかりやすく解説、案内する形式での実習を行いました。

実習は、受講者が一人 15～20 分の持ち時間で、まず約 15 分間で説明し、残り約 5 分間で質問を受ける方法で行いました。知識豊富な受講者が多く、熱心な解説と質疑応答が続きました。

今回受講者が選んだテーマは、「霞ヶ浦、涸沼、諏訪湖における湖水 COD 値と COD 負荷量との関係」「かすみがうら市崎浜のカキ化石床」「霞ヶ浦用水事業から霞ヶ浦導水事業へ」「霞ヶ浦の波動が湖底に及ぼす影響（模型実験）」「古代の霞ヶ浦」でした。

解説実習に先立ち、まず講師から「世界湖沼会議には、国内外から大勢の参加者が来られる予定ですが、多くの方は霞ヶ浦について不案内なので、基礎的な知識から丁寧に説明することをこころがけること。自ら、表現方法や話し方をふくめ、工夫しながら、分かりやすい説明をめざすこと。受け身で学ぶことも大事だが、知識を整理して、他者に積極的に話しかけ、能動的に伝えることによって、自らもさらに学び、体系化することに繋がる。ストーリーに起承転結とユーモアがあるとよい」などとガイダンスがありました。

受講者の中には、手作り資料（模型）や自作の紙芝居形式のフリップ（写真や図表）を用意し、生き生きと説明する方もいて、受講者は互いに説明方法を工夫しながら知識を深め合いました。



手作りのフリップや模型を使って解説実習する受講者